平成３１年度　学校運営連絡協議会実施報告書

１　組織

（１）南多摩学校運営連絡協議会

（２）事務局の構成

経営企画室長、前期・後期課程教務部主任２名、前期課程副校長　　合計４名

（３）内部委員の構成

校長、前期・後期課程副校長、前期・後期課程教務部主任、後期課程生徒部主任　後期課程進路部主任、後期ＦＷ部主任、３学年主任、６学年主任　　合計１０名

（４）協議委員の構成（氏名の掲載も可）

学識経験者（大学副学長・教授）３名、公的機関（図書館館長）、地域事業者、近隣自治会長、同窓会担当者、ＰＴＡ会長　計８名

２　平成３１年度学校運営連絡協議会の概要

（１）学校運営連絡協議会（第１～３回）の開催日時、出席者、内容、その他

第１回　令和元年６月６日（木）内部委員１０名、協議委員６名

協議委員委嘱・委員紹介、平成３０年度学校経営報告、平成３１年度学校経営計画、教育活動報告、意見交換

第２回　令和元年１０月２４日（木）内部委員１０名、協議委員８名

ＷＷＬ（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業について、学校評価アンケート案の提示と協議、教育活動報告、意見交換

第３回　令和２年２月２８日（金）開催で予定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止。学校評価アンケート集計結果報告および提言、教育活動報告等の資料を送付。

（２）評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第１回　令和元年６月６日（木）内部委員３名、評価委員１名

評価委員の委嘱、学校評価の基本方針の確認、学校評価アンケート案検討

第２回　令和元年１０月２４日（木）内部委員３名、評価委員２名

学校評価アンケート実施方法の検討、学校評価アンケート案作成

第３回　令和２年２月２８日（金）開催で予定していたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止。学校評価アンケートについては、郵送によるやり取りを通じて、提言をまとめた。

３　学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（１）学校評価の観点

「学校への満足度」「学校の意欲」「学校の実践と成果」の観点で実施する。

（２）アンケート調査の実施時期・対象・規模

１０月～１１月	全校生徒	対象：９０１人	回収：８５３人	回収率：　９６％
１０月～１１月	保護者全員	対象：９０１人	回収：４３９人	回収率：　４９％
１２月～　１月	地域・住民	対象：２００人	回収：１１４人	回収率：　５７％

１０月～１１月　教職員　　対象：　５６人　回収：　５６人　回収率：１００％

（３）主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、美化清掃、安全教育、地域奉仕、広報活動、国際理解教育、生徒実態、いじめ、体罰

（４）評価結果の概要　（学校及び校長への意見・提言内容）

ア　「１　南多摩中等教育学校に入学して良かったと思っている」
「２　先生は、生徒一人一人の実態を把握して、学力を身に付けさせる授業を行っている」
「３　先生は、生徒が主体的に取り組める授業を行っている」
「４　先生は、生徒の多面的・多角的な思考力を養う授業を行っている」
「５　各教科の課題量は適切である」について
「８　生徒は、基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）が身に付いている」
「９　生徒は、身だしなみを整え、あいさつをしている」

・以上７項目は同じ傾向にある。前期生は肯定的回答が今年度減少しており、後期生の肯定的回答は増加している。

→前期生の肯定的回答が減少していることは、学習意欲が薄れ、授業や課題に対して前向きに取り組むことができない生徒が増えてきているためと考えることができる。このことは、学校生活全般に渡って前期生の緊張感が薄れてきていることを表していると捉えることができる。さらに、学習面や生活面で緊張感が薄れている生徒を見て不満を感じる生徒もいるのだろう。教員の自由意見欄には、生活に関わる指導の不足の指摘があり、後期生の自由意見欄には下級生の服装やマナー、挨拶を気にする声がある。１年生の入口指導や、日常の生活指導を今まで以上に徹底して、規律ある生活からの学習意欲の向上が求められていると考えられる。一方で、自立ができている生徒からは校則が厳しすぎるという声があり、十分な配慮が必要である。

また、後期生の肯定的回答は増加傾向にある。自身の進路を見据えた学習意欲の向上、学校行事等の充実、各種取組による成功体験など学校生活が豊かなものになっていると考えられる。後期になると学習も自立したものが求められるが、前期生の時期の課題をこなすうちに勉強のやり方が身についた、という自由意見もあり、６年間の一貫教育に対する満足度が表れている。

ただし、前期生・後期生ともに、一定数の否定的回答があることは事実で、こうした生徒に対する学習面のサポートや心のケアも求められている。課題量については特に肯定的回答が少ないので、拡大学年会等で調整を行うとともに、教科ごとに身に付けさせなければならない学力の情報共有を密に行っていく。

イ　「６　学校は、暴力やいじめの防止等、安心して学校生活が送れるように取り組んでいる」
「１０　学校は、生徒一人一人の心の悩みに適切に対応し、解決に向けて努力している」

・前期生の肯定的回答は今年度減少したが、後期生の肯定的回答は３年連続で増加している。

→普段の授業や集会等での意識づけをしっかりと行い、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを一層推進していく。次年度も継続した指導を行っていく必要がある。

ウ　「１２　生徒は、手帳や生活時間調査により、自分の時間管理ができている」

・昨年度と同様、全体的に肯定的回答が低いが、後期生は増加している。

→前期課程では、学習時間や生活時間の管理に活用しているノルティ手帳や、定期テスト前の学習計画表作成などで自己管理を行うように指導しているが、上手にできていないと感じる生徒が増えてきている。よりきめ細かい指導が求められるところである。後期課程では、ＢＹＯＤを生かした隙間時間の活用を含め、自主的に計画を立て取り組むように指導をしていることが成果につながっている。

エ　「１４　学校は、日本文化と外国の文化を理解させる取組を行っている」

・今年度は肯定的回答が増加しており、特に後期生は大きく伸びている。

→今年度、WWL コンソーシアム構築支援事業による外部機関と連携した取組で探究学習の成果を英語で発表したり、１２月にはオーストラリア・ニュージーランド・台湾から１４人の留学生を受け入れたりした。このような国際理解や異文化理解につながる新規事業が増えたことが一因と考えられる。

オ　「１７　地域活動の行事に参加したり、地域と交流する機会がある」

「１９　学校は、ホームページ、進路だより、学年通信等により情報発信を十分行っている」

・３年間の比較をすると後期生の肯定的意見が増加してはいるが、改善の余地がある。情報発信について 2017 年度の後期生の評価が著しく低くなっているが、これは調査直前の豪雨による休校の連絡の混乱が影響していることによる。

→太鼓部や南多摩フィルハーモニーの地域での演奏などはあるが、学校として全体で取り組んでいるとは捉えられていない。ホームページの更新は頻繁に行っており、メディアにも多く取り上げられたりしてはいるが、地域からのアンケートでも「よくわからない」の回答が非常に多く出てきている。地域と行う防災訓練、文化祭、授業公開、成果発表会など、実際の活動を見てもらい、学校に対する理解・関心を高めてもらうように取り組んでいく。

カ　「１８　生徒は、日頃から読書をしている」

・３年間を通して、後期生の肯定的回答が低く課題となっていたが、今年度も傾向は変わっていない。

→前期生は朝読書の時間が確保されている上、図書館司書の指導によるビブリオバトルや国語科の１００冊プロジェクト等を行っている。それに対して、後期生は朝読書が朝学習に変わり、スマートフォンの利用が可能になることで通学中の読書が減少すると考えられる。後期生にも純粋な読書の時間を確保する工夫が求められており、長期休業中の課題図書等さらなる工夫が必要である。また、今年度５年生は朝読書の時間を設けている。

【自由記述から】

ア　前期生の荷物についての意見

・前期生の荷物が重すぎて、成長に支障をきたすのではという心配の声が複数上がっている。家に持って帰る物、学校に置いておける物等の区別を明確にして指導する必要がある。

イ　施設関係についての意見

・照明やトイレをはじめ、施設の故障・不備に関しては経営企画室を中心にできるだけ早く対応をする。

ウ　街路灯についての意見

・東側道路が夜間とても暗いため、学校の街路灯を点灯してほしいという要望が地域より上がっている。そのため、木を伐り、夕方５時から深夜１時まで点灯する措置を取っている。

エ　フィールドワーク活動の成果について

・他校の高校生とともにビジネスの基礎やビジネスプランの作り方を学ぶ企業創業ラボに参加して視野が広がった、外部で探究学習の成果発表を行い発信の喜びを感じた、などフィールドワークの成果に対する声が上がっている。

（５）評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

ア　暴力・いじめや体罰・暴言の防止、心の悩みへの対応などをしっかりと行い、生徒・保護者にとってより一層安心で安全な学校を目指して、分掌・学年等で努力していく。

イ　手帳等を使った時間管理、ＢＹＯＤのさらなる活用を促し、自立した生活態度、学習意欲の向上を図る。また、各教科の課題の設定も、成長段階に応じた適切な量となるように調整する。

ウ　地域に対する情報発信をより積極的に行い、地域を巻き込んだ防災訓練や学校公開、文化祭、成果発表会などで実際の活動を見てもらう。また、フィールドワーク活動などの外に出ていく活動においてより積極的に地域の方々とコミュニケーションを図る。このような取組を通して、学校に対する理解・関心を高めてもらえるように取り組んでいく。

エ　挨拶励行・読書習慣の定着に向けて、集会・クラス・授業等、あらゆる場面においてそれぞれ委員会を活性化させ、自治的な取組を深めていくことを継続する。また、図書館司書の指導による前期生のビブリオバトルへの参加や、国語科の１００冊プロジェクトなど、読書に関心を持ってもらう取組を継続して行う。

オ　働き方改革については、取組が十分に評価されていないが、校長の月平均定時外勤務時間の４５時間を基準に考えると、２５人の職員はその数字を下回っている。一方で過労死ラインと考えられる定時外勤務時間を超過している職員が１７人いるが、これらの職員の定時外勤務時間は今年度４月と１２月とを比較して平均で１日３０分短縮されている。しかし、いじめや保護者対応など定時外に行われている不可欠な業務があり、これがなければ学校運営が成り立たないのも現実である。このような状況ではあるが、生徒と職員の心のケアはどちらが欠けても安全安心な学校運営を実現することができない不可欠なものであるので、一人一人がライフ・ワーク・バランスを意識して、少しでも定時外勤務時間の短縮に取り組んでいく。

4　学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

ア　WWL コンソーシアム構築支援事業など本校での色々な取組について、様々な教育活動が行われていることへの理解が得られていることが分かる。

イ　本校への教育活動に協力できることがあれば協力してくださる体制が出来上がっている。今後も学校評価の結果を踏まえ、速やかに改善策を実行に移していく。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

ア　適正な評価結果を得るためには協議委員をはじめ地域や社会への情報発信を継続するとともに、実際の教育活動を見てもらう機会を増やしていき、学校に対する理解・関心を高めてもらう必要がある。

イ　評価結果の経年変化をわかりやすくとらえられるように調査項目を継続して取り扱い、さらに内容を精査していく。

5　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

（1）学校運営

学校評価アンケートであがった意見を学校経営計画のどこに反映させているのか、生徒集会，保護者会や校長と語る会などを通してより丁寧に知らせている。

（2）学習指導

WWL コンソーシアム構築支援事業等の様々な取組で外部での発表等の機会が増えたことが、当該の生徒だけではなく周りの生徒にもよい影響が表れた。特に、後期生の授業に対する姿勢が前向きになり、学習態度が向上した。

（3）特別活動

図書館司書の指導による前期生のビブリオバトルへの参加､国語科による１００冊プロジェクト、朝読書等の活動により、前期生の読書に対する意欲が高まっている。

（4）生活指導

恒常的に声掛けを行うことにより、挨拶をする習慣がだんだんとよくなってきている。

（5）進路指導

BYOD 事業による Classi やノルティ手帳を活用して、学習時間等の把握をすすめ、生徒の学習意欲を喚起した。今年度の卒業生は、４９．６％が国公立大学に合格して、難関国公立大学合格者も１３名に増加した。

（6）健康・安全

生徒の生活時間管理を丁寧に行うとともに健康維持に対する意識を高め、健康的な生活を送るように指導した。

6　「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数　８人

（2）学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	1				2	

7　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

今年度は出席した協議委員はいなかった。次年度も参加を呼びかける。

8　その他

保護者および地域のアンケート回収率を高めるための工夫を検討する必要がある。保護者に関しては、PTA の協力を仰いで回答を呼び掛けてもらうことは効果があると思われる。ただし、前期後期ともに「校長と語る会」を開催しており、深い御意見、御批判、御相談を頂いており、保護者の方々とのコミュニケーションは十分に取れている。また、地域の方々についても、各代表者の方々に機会あるごとに回収率を尋ねるなど、依頼した後にも確認していくことが必要と考えられる。